

令和 6 年度

岡崎市中心企業・勤労者支援センター指定管理業務に関する事業報告書

公の施設名称	岡崎市中心企業・勤労者支援センター
施設の設置目的、役割	地域産業の振興のために必要な人材及び中小企業の育成並びに勤労者の労働環境の改善及び福利厚生を増進を支援する施設
施設の所在地	岡崎市羽根町字小豆坂 117 番地 3
施設規模	敷地面積：6,274.00 m ² 建物面積：1,959.61 m ²
指定管理者	名 称：岡崎市中心企業・勤労者支援センター管理共同事業体 所在地：岡崎市羽根町字小豆坂 117 番地 3 代表者：公益財団法人岡崎幸田勤労者共済会 理事長 山本 公徳
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

業務内容	実 績
支援センターの保守管理に関する業務 建築物、建築設備、備品等の保守管理	自家用電気工作物保安管理・消防設備保守点検及び防火対象物点検・空気調和設備保守点検・フォークリフト保守点検・天井クレーン点検・建築物等定期点検業務については、専門知識や技術が必要なため業者委託をし、施設の利用状況と照らし合わせながら、保守点検等を安全に実施することができた。 建築物、建築設備については、指定管理者において建物自主点検チェックシートにより毎月点検し、不良箇所の早期発見に努めた。 備品等については、管理台帳により数量と状態の確認をした。
支援センターの環境維持管理業務 清掃業務、環境管理業務、植栽管理、保安警備業務、施設保全業務	警備業務については業者委託をし、防犯、火災監視サービスにより終日施設の安全確保を行っている。 清掃、植栽管理については業者委託をするとともに、管理者による清掃や敷地内の樹木の選定を行い環境整備に努めた。 廃棄物についても業者委託をし、施設内の衛生環境を整えた。
施設の運営に関する業務 受付業務、産業人材の育成に資する職業訓練の実施に関する業務	予約受付については、定期的に利用している団体が多いためスムーズに予約受付ができています。 職業訓練の実施に関する業務では、まずは施設見学を依頼し、持込品の確認や利用時間等の事前打ち合わせを行ったので、滞りなく実施することができた。 今年度は、「板金・ルーフフェア 2024」のイベント実施にあたり、岡崎技術工学院や関係団体との協力によりステージイベントとしてセミナー、ディスカッションや板金の道具の展示即売を同時に行うことができた。建築板金科の卒業生も参加し、職業訓練校の施設で開催できたことは、大きな意義がある。昨年の石材業関連イベントに引き続き、産業を盛り上げていく場として活用されるよう、今後も継続的に発展させていきたい。
行政財産目的内使用（自動販売機設置）に係る業務	施設利用者の利便性向上のため本館棟に 1 台、多目的実習棟に 1 台自動販売機を設置している。季節商品の切替時期や販売商品については、気温や施設利用状況をみながら業者担当者と相談し施設利用者が快適に過ごすことができるようにした。 また、職員も自動販売機周辺の清潔に心掛けた。

(2) 事業実施に対する自己評価

基本協定書に基づき、岡崎市中小企業・勤労者支援センター業務仕様書及び施設設備の維持管理に関する法令に沿って事業を実施した。

保守管理に関する業務では、消防設備に関する指摘事項であった多目的実習棟、本館棟の誘導灯の取替工事を実施し、利用者の安全を最優先に計画に沿った修繕を実施した。

また、今年度は岡崎技術工学院の石材加工科の実技授業の一環で、敷地内駐車場の不良箇所の補修を実施した。岡崎技術工学院と相談、協力して改善できることは、本センターの強みである。

施設環境維持管理業務では、管理者が随時、草刈及び剪定作業を実施し、環境維持に努めたが、急斜面等の危険箇所の作業については安全確保の観点から、業務委託にて対応した。天候等の影響により実施時期が遅れてしまったものの、短期間で効率的に実施することができた。

施設の運営に関する業務では、定期的に利用している団体が多いため、担当者の変更時においても、団体内で十分な引継ぎが行われており、スムーズに窓口受付ができています。一方、岡崎市以外で登録番号を取得した利用者においては、当施設の利用手続きにおいて、手間取ってしまう場面があった。

産業人材育成に資する職業訓練の実施については、今年度は講習や研修目的の新規企業の利用が11団体あった。これらの多くは、当センターのホームページを通じて予約が行われた。また、以前に関係団体が職業研修で利用した実績があり、同様の研修をしたいという団体が複数あったほか、過去に技能検定等で利用した団体による再利用も2件あった。一度職業訓練等で利用した団体は、当施設の設備や会場設営状況に理解があり、再利用に繋がっている。とりわけ、職業訓練の実技実習や実技検定で利用可能な施設が、愛知県内でも限られていることから、本施設の設置目的に即した利用が継続されている点は、大きな意義がある。

提案事業については、ドローン操縦体験者数は前年度とほぼ同水準であった。今年度は、ホームページやフェイスブックを積極的に活用した結果、岡崎市、幸田以外の利用者が増加した。

昨年度の7月から実施した火曜日のフリーフライトを、今年度は4月から実施したことにより、利用者が119名増加した。昨年同様、免許取得を目的とするリピーターが活用している。また夜間自主訓練についても9名増加しており、昨年度からの継続利用者がインストラクターの助言を受けながら資格取得を目指し活用している。

また屋内練習場のみならず、昨年度に引き続き、教員向けドローンの講習会や農業従事者向けドローン講習会として、東部学校給食センター跡地と愛知県立農業大学校での屋外ドローン操縦体験を実施した。今年度は新たな取り組みとして、ドローン空撮体験セミナーを幸田町防災広場で行った。参加者は少なかったが、「日程が合えば参加したかった。」という声も多かったため、今後は参加しやすい実施日を検討し、屋外の操作体験を継続していきたい。

先端技術セミナーとしては、アンケート結果を踏まえ、講習内容を組み立てた結果、日々の業務を効率化するセミナーが好評であった。加えて、今後ますます顕在化するであろう、仕事と介護の両立への企業対応に資する内容として、産業ケアマネジャーによる「仕事と介護の両立セミナー」を新たに開催した。

子どもたちの人材育成事業として、中高生を対象とした「岡崎デジタリアン創出・育成事業」や小学生向けのプログラミング教室「プログラミング de 自由研究」を昨年に引き続き実施した。今年度は、広報活動として、月刊「PTA おかざき」に参加者募集の記事を掲載した結果、定員を大幅に上回る応募があった。デジタル技術に対する子どもたちの高い関心が明らかとなり、将来を担う人材に対して当センターが果たす役割の重要性を再認識した。

また、年度末には「ドローン Day」を開催し、デジタリアン修了生によるドローンサッカーマッチを実施し、修了生の成果を発表する機会を設けることができた。スタッフが企画したドローンを使った面白ゲーム4種類を実施したことにより、多くの方々にドローンに親しんでいただく機会を、楽しさを交えながら提供することができた。

このように、昨年度までは、今までの提案事業をステップアップするにはどうしたらいいかを検討し事業展開してきたが、今年度は、昨年度の内容を継続しつつ、更にニーズに沿ったセミナーの開催や楽しいイベントの企画に力を入れ、取り組んできた。

2 勤労者支援センター施設の利用状況

(1) 利用状況

＜利用件数累計表＞

区 分		件（件）	利用人員（人）	稼働率（％）
本館棟	第1教室	121	2,699	13.10
	第2教室	164	1,112	17.75
	第3教室	389	2,276	42.10
	第4教室	231	3,352	25.00
	第5教室	143	1,560	15.48
	本館棟計	1,048	10,999	22.68
専門実習棟	第1実習室	54	253	5.84
	第2実習室	79	317	8.55
	第3実習室	176	1,084	19.05
	専門実習棟計	309	1,654	11.15
多目的実習棟	多目的実習室	924	9,880	50.00
合 計		2,281	22,533	24.69

(2) 利用状況に対する自己評価

令和6年度の利用状況については、(1)の利用件数累計表のとおりである。

本館棟については、第1教室は主に陶芸や面打ち講座などの利用、第2教室は岡崎技術工学院の認定訓練や先端技術セミナーによる利用、第3教室はパソコン講習や先端技術セミナーによる利用、第4・第5教室は職業訓練講習、先端技術セミナー利用である。

前年比では、利用件数は28件の減、利用人数は811人の増である。利用件数が減少した理由は、今年度は企業の研修での新規の利用団体が増加したが、岡崎技術工学院のクラス数や授業の時間割等により利用件数が減少した。利用人数の増加は、選挙会場としての利用があったためである。

専門実習棟については、第1、第2実習室は、岡崎技術工学院の認定職業訓練の夜間利用が主で、その他に岡崎技術工学院の実技試験による日中利用、組合団体の実技検定での利用である。第3実習室は、木工教室、日曜大工教室の利用と岡崎技術工学院の認定職業訓練の夜間利用である。前年比、利用件数は37件の減、利用人数は11人の減である。建築板金の研修や技能検定に向けての実技訓練での利用件数が増加したが、本館棟の利用状況と同じように岡崎技術工学院のクラス数や授業の時間割等により利用件数が減少したが、利用人数はほぼ前年度並みであった。

多目的実習棟は、職業訓練の実技訓練や実技試験、指定管理提案事業としてのドローン操縦体験及び卓球、バレーボール等のスポーツの団体による利用である。前年比、件数は77件減、利用人員は156人の増となった。

今年度も定期的な利用団体が、他施設への移行や、グループの高齢化による解散などの理由により、3団体減少した。一方で、「板金・ルーフフェア 2024in 愛知」のイベント開催や、警備関係の実技研修で利用した団体からの紹介により、新たな団体が多目的実習棟を警備の実技研修に活用した。こうした取り組みにより、少しずつではあるが、施設の設置目的に沿った利用実績を積み重ねている。

3 勤労者支援センターの管理運営にかかる収支状況

(1) 収支状況

	項 目	内 訳	決算額（円）
収 入	指定管理料収入		30,445,460
	事業費収入		682,500
	便益施設に関する収入	自動販売機収入他	187,889
収 入 計			31,315,849
支 出	直接管理費	直接人件費、光熱水費、燃料費、役務費、手数料、修繕費、消耗品費、委託料、保険料他	24,173,028
	（うち修繕費）	室外機電気回路部品の取替、非常用照明取付、第5教室空調設備修繕、通用門修繕	(2,376,000)
	事業費	事業に係る経費	5,203,445
	その他	法人税・住民税及び事業税、本部経費、当期剰余金他	1,939,376
支 出 計			31,315,849
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

収入は、指定管理料収入、事業費収入、自動販売機等に関する収入である。

指定管理料収入は、前年比 99.8%である。

事業費収入は、ドローン操縦体験及び夜間自主訓練、火曜日のフリーフライトの参加費、イベントの参加費と先端技術講座の受講料である。ドローン操縦体験者は、昨年よりかなり減少したが夜の自由練習と新規事業の火曜日のドローンフリーフライトの参加者が増加したため、前年比 102.2%となった。

自動販売機収入他は、技能検定等で施設を利用する主催者が水分補給の飲み物を持参することが多い傾向であるため、前年比 93.4%となった。

収入合計では、前年比 99.8%となった。予算計画対比は 88.7%であった。

支出については、直接管理費のうち直接人件費は、岡崎幸田勤労者共済会スタッフ4名分の人件費と夜間業務を担当している岡崎技術工学院の人件費である。限られた職員で、効率的な会館管理業務に努めた。

光熱水費は、節約に努めたが酷暑の影響もあり前年比 110.2%となった。

消耗品は、AEDのパッドやカラーコーンなどを購入したため、予算計画比 111%となった。修繕費は、施設の利用者の安全を第一に、優先順位を考慮しながら実施した。空調設備の修繕をはじめ、本館棟の非常用照明の設置や通用門の修繕等を行い、予算どおり執行することができた。

直接管理費支出合計では、前年比 94.6%、予算計画比 89.3%となりほぼ計画どおり執行す

事業費については、提案事業を実施するにあたり、今年度も環境を整える計画を立て、屋外のイベントで使用するテントを購入したほか、本館棟においては第4教室と第5教室で、人数や形式に応じたセミナーが行えるよう、テーブルを新たに整備した。その他、積極的な広報活動と参加者に喜ばれるイベント開催にかかる費用により、前年比 101.1%、予算計画対比 100%となった。

指定管理期間4年目を迎えた本年度は、特に提案事業については、バージョンアップを図るため、広報手段や戦略を考えながら計画的に事業を実施した。収入は前年並みであったが、今後の更なる事業展開を見据えた支出に充てることができた。

多目的実習棟については、職業訓練で使用することもあり、訓練後の清掃が十分にされず砂だらけになってしまっていたため、訓練後の清掃状態をしっかりと確認する必要があった。また清掃用具についても訓練団体と事前に協議すべきであったと反省している。

意見・要望については毎年同じよう内容が多く、特に多目的実習棟の利用のあり方を問われる時期にきている。

5 その他の自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

今年度は、市政だよりや当センターの HP のほか、当センターの情報を取得できる方法として、JR 岡崎駅や名鉄東岡崎駅に提案事業等のポスターを随時掲示した。ドローン操縦体験のアンケートからも駅のポスターを見て申し込みをした参加者もあり、通勤者や観光客などの幅広い層に当センターの活動内容を周知することができた。チラシも各所に配架し、イベントのチラシについては、近隣の町内会の回覧をお願いした。このような広報活動も利用者へのサービスに繋がる活動として捉え、積極的に取り組んできた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

施設利用者やドローン操縦体験、セミナー参加者からのアンケートにより利用者ニーズを把握している。また提案事業のドローン操縦体験や先端技術セミナーでは、参加者とインストラクターや講師との会話からニーズを把握することができるので、インストラクターや講師との情報交換の場を設け、事業内容に反映できるようにしている。

毎年のアンケートで、パソコン講習に参加の高齢者は、1 階での講座開催を望んでいるが、1 階には講習向きの教室がないため、要望に応えられない。これらの指定管理者だけでは対応できない要望については、引き続き岡崎市とも協議し、改善できることについては改善していきたい。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

今年度は、第3駐車場の近隣住民から、雑草がかなり伸びているので早急に草刈りを実施してほしいとの苦情が寄せられた。しかし、天候等の関係で迅速な対応ができず、同様の苦情が2度寄せられる結果となった。当センターには、敷地外に2箇所の駐車場と、管理対象となる急斜面がある。とりわけ急斜面の草刈については、他の所管が管理している場所との連携が不可欠である。今年度は、その連携が不十分であったと反省し、今後の改善課題とする。